
オジサンB BOY結社

素転橋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オジサンB BOY結社

【Nコード】

N4469E

【作者名】

素転橋

【あらすじ】

アナログな時代に青春を謳歌した我々。そんなオジサン達が、「携帯」「PC」「インターネット」が急速に普及した現在の日本で、懸命に時代に喰らい付きながら、仕事、恋愛、遊びに一生懸命になっっている様を描くオジサン活劇。役立たずのオジサンも文殊の知恵！久しぶりに地元の友達を再会。そこから、大きく人生が変わる。

はじめに

はじめに

まだ、世の中が「バブル」の残り香を名残惜しむような、1990年代。

ジュリアナ東京は、ASRという横乗りSHOPになった。

芝浦GOLDは健在だった。

僕は、高校生になった。

初めて夜の六本木のクラブ「Nu」という場所に行き、何もかもが衝撃的だった。外人の多さ。マックが深夜なのにやってるし。その中でも、hip hopという音楽、スタイルに出会って、衝撃的だったことを今でも胸のどこかで懐かしく思う。

Lisette Melendezの「Goody Goody」が街中でヘビローテーションで流れていたあの日から、15年近くたった。。。

僕らはもうオジサンと言ってもおかしくない歳になっていた。

気持ちはまだまだ若い、むしろこれからだ！金も20代よりも使えるし、イベントだけのパーティーだの自分らで出来るぜ。というパワーが出てきた頃だ。しかも、便利なことにPCで何でも出来てしま

う時代が来た。

しかし、今思えば、この「時代」こそが今後、僕らの行き先を大きく進路変更しようとは・・・想像もつかなかった。

便利な時代。今の10代20代がメールとかSNSとかPCや携帯ですべてのコミュニケーションをとる時代。

喧嘩も、いじめも、恋人探しも、電子の世界の中で。

僕らに言わせたら、今の10代20代って怖いね。ハッキリ言って、だって何を考えてるか解らないし。まあすべては何時の時代もオトナのせいなんだけど。

この物語はそんな時代を生きる30代のB・boyオジサンが巻き起こす珍騒動?を書いた物である。

ナチゲロン

ガガガガガガピピピピッピッピッピッピッピッピッピッピッピッ
ピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピピ

「ご臨終ですか！」

シヨートしかけた頭の回線がやっと繋がった頃、金髪のナチユラルドレッドにsupremeの厚手のTシャツを着て、リーバイス501を腰履きしたナチが、不自然な黒さをした顔を一層引き立たせる真つ赤な唇でアイスコーヒーストローで啜りながらおどけた感じで言った。

「ああ、終わったよ。真つ白になった」

と、neweraのヤンキースの黒キャップを頭から手に取り、俺は「あしたのジョー」のセリフ風に言ってみた。

無論、ナチはその言い方が「あしたのジョー」風ということに気づきもしない。

幼少の頃から、ナチは漫画にはあまり興味が無く、みんながジャンプだのマガジんだのを必死で読み漁ってる頃から、世界地図とか図鑑を読んてるような少年だった。俺は、そんなナチに幼心にとても関心があったので友達になった。

2010年初夏

何時しか一日の最高気温が35 を超える日を”猛暑日”という呼び名になり、そんな日が当たり前のように10日と続く夏。うだるような暑さが当たり前の日常になり、あちらこちらでraggaie

が聞こえ、気分は南国のラテン系。
それでも、働き者の俺たちはガテン系の労働者。

俺はファミレスで、団地のゴミ捨て場から拾ってきた、CDラジカセの修理に必死だった。

そして、隣りであざ笑うかのようにナチがニコニコしながら、アイスコヒーを啜ってるのだ。

齢30台前半、いわゆる中年層に差し掛かった・・・いや、わかりやすく言って「オッサン」二人が日曜日の家族でこつた返すファミリーレストランで、CDラジカセを弄ってる。

この光景はどこからどう見ても気色悪い。

しかし、いいのだ。

なにしろ、渋谷、原宿とかのファミレスではないから。

ここは、地元の錦糸町だからね。

錦糸町にはWinsがあつて、日曜ともなれば競馬好きなおっさんでこつた返す町なのだ。

ファミレスもパチンコやも喫茶店も。

だから、ファミリーに混じって汚らしいオッサンが数人でファミレスに居てもなんの違和感も無いのだ。

錦糸町。

東京の下町の代表的な歓楽街。

墨田区 江東橋近辺である。

夜になると、フィリピン、ロシア、コロンビア、中国と様々な蝶達
が下町のオッサンどもの金という蜜に群がる。

また、不良が多く田舎的な雰囲気もある。

最近、第二東京タワー「東京スカイツリー」が出来たこともあり、
墨田区長は錦糸町の治安の改善に大忙しらしい。困るのは不法滞在
の外人達と、彼らの雇い主の家業の方々だ。

しかし、一斉摘発でなんだか錦糸町の活気もぐっと下がった気がする

る。

なんだか、町全体がどんよりした。

俺はどちらかというところ、昔のダークでダーティーで国際色豊かだった錦糸町が好きだった。

そんな錦糸町を舞台にこの物語は進んでゆく。

「おい！わかってるのかよ！ナチ！この深刻な状況をさ。」

俺は半ばキレ気味、半ば諦め気味に言った。

「いーじゃないか、いーじゃないか」

ナチは腹の立つほど呑気な言い方で返事をした。

そんな陽気な、この気候のせいでラテン系になってしまった友人の頭の具合を考慮して、俺は諦め笑顔で返した。

「そーだね」

ナチの笑顔でいくらか気分が良くなったのは事実である。

ナチの笑顔は「笑顔」のそれとはかけ離れてるのだ。ナチを知らない人に言わせれば「引きつった笑顔」や「苦笑い」の部類であることは間違えない。

ただ、俺にとってはナチの笑顔は特別なのである。

一見その辺のB-boyに見えるが、頬はコケ、痛々しいほどに血管が露出した腕なんかはジャンキーそのものだ。

そう、ナチはジャンキー。

というのは嘘で、本当はただの引きこもり。いや、「元」がつくけどね。

ナチというのはモチロンあだ名で、バリバリの下町っ子で俺とは幼馴染。きちんとした硬派な名前があるけど、ここ地元ではナチで通ってる。

なぜ「ナチ」かって言うと、小さいころから色黒で髪の毛の色が薄かった。おかげで厳しかった中学の先生は髪の毛を脱色してるんじゃないかと何回も疑った。

高校生になったナチは、「どーせなら」ってことで、金髪にしてしまったらしい。

そんな姿を皆「キン肉マン」に出てくる「ナチグロン」に似てるってことから、略してナチと呼ぶようになった。

ナチは、ある事件がきっかけで20代前半から「引きこもり」をしている。

引きこもりって言っても、最近の若者のそれとはちょっと違う。

高校卒業後、地元の小さな鉄工所に就職して、18歳から今までキチンと仕事はこなしている。

むしろ、腕利きの職人なのだ。

しかし、その「ある事件」がきっかけで、仕事以外は一切友達関係とも連絡を絶ち、家でPCをいじって過ごしていたのだ。この歳になつて俺と再会するまでは。

「ある事件」については後で語るとして、次は俺の自己紹介をします。

俺はシンゴウ、またはシンゴー。

どっちでもいいけど。

名前が眞吾ということもあるが、友達が言うには

「赤」「青」「黄」とこの三原色ばかりの服装を好み、物事も「黄」の曖昧な部分は一瞬で

てきはきと「赤」＝待て「青」＝GOと決めるからだそうだ。
親との関係が上手くいかず、家出がてら、30まで地元をはなれ群馬でレジャー施設の仕事をしていたが、最近東京に帰ってきてきて広告代理店でサラリーマンをしている。

仕事は適当にやっつけ、土日は遊びほうけるという生活に飽きた頃、偶然地元の「オリンピック」でPCの部品を買っているナチと再会する。

ナチが引きこもってることを噂で知っていたが、俺は何の気なしに呑みに誘った。

モチロン最初は断られたが、昔の友達が心を病んでるのが気にかかったので、おせっかいと解りながらも、実家を何度も訪ね、遊ぶようになった。

ナチもその頃、親父さんが倒れ町工場の給料では苦しくなっていた頃で、俺は慢性的な金欠だった為、時代の波に乗って、土日だけの「リサイクル業」を二人で趣味がてらするようになった。

そう、世の中はどこもかしこも「エコ」をうたい文句にする時代で「リサイクル屋」が沢山できていたのだ。

俺は早速、余暇で古物商の許可を個人で取り「衣類商」をいう形だけは作った。

そう、何事も形から。

仕事内容は、ナチが得意のPCで情報と経理を俺が、行動を。

という形で一応やってみることにした。

まず、ナチがインターネットでフリーマーケットの情報を集め予約

をしたり、粗大ゴミの出る情報を拾ったり、夜逃げの情報を拾ったりする。

ありとあらゆるゴミの情報を拾い集め、使えそうな情報をまとめ、俺に渡す。

そこから、俺の出番。

俺は学生の中から友達とあらゆる物を盗み万引きはかなり上手くなっていた。しかし上には上。地元一の「怪盗」と呼ばれる師匠に盗みのノウハウを色々と伝授された。

今では窃盗こそしていないが、その時のノウハウを活かし、ゴミ拾いと同じく、窃盗ギリギリ・・・いや、窃盗してる時もある。

そうこうして、沢山の品物を集め、ネットオークションやフリーマーケットで売りさばくのだ。

「リサイクル業」といっても店舗はなく、ネットのなかに形だけの「店」があるだけだ。

稼ぎは月給3万がイイトコロ・・・
仕事とは呼べない。

そんな「遊び」と「仕事」を趣味としてやり始めて半年が経ったある日。

そう、まさに話をもどすが、家族と競馬のおっさんがこった返すファミレスで「商品」のCDラジカセを修理していた時。二人に大きな大きな出会いがあった。

僕らは、ここでの出来事がすべての始まりで、この日から本当のリサイクルショップ

「RBN」の始まりだと語り継がれる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4469e/>

オジサンB BOY結社

2010年11月5日11時12分発行